

【受験体験記】～生徒会活動が導いた進路～

○大妻女子大学短期大学部（家政科 生活総合ビジネス専攻）

私がこの大学を受験しようと思ったのは、三年生の四月頃でした。私はそれまで、行きたい大学や将来は何になりたいのか決まっておらず、看護体験に行ってみたり、様々な大学のオープンキャンパスに参加しました。

私は生徒会で会計として活動した際、縁の下の力持ちとして生徒会を支えてきました。この経験を経て、私は将来、金融機関という立場でお金を必要としている人を支えたいと思い、ビジネスマナやお金の流れ、金融について知識を身に着けるため生活総合ビジネス専攻を選びました。

私はAO入試を受験しました。試験内容は、書類選考と二対一の個人面接でした。提出書類として、キャリア計画書を書いて提出しなければなりません。夏休みはほとんど毎日学校へ行き、担当の先生に何度も添削してもらいました。書いたことのない分量と自分の考えを明確に且つまとめることがとても難しく、悪戦苦闘しましたが、何とか夏休み最終日に下書きを完成させることができました。文化祭までにキャリア計画書を仕上げるはずでしたが、出願五日前に急な訂正がありました。文化祭の準備と軽音のリハや練習で本当に余裕がなく、いっぱいいっぱいでも辛かったです。出願初日に提出することはできませんでしたが、無事提出することができました。文化祭と被らないよう、一カ月以上余裕を持ち、書類作成に取り掛かりましたが、文化祭と被り、出願初日に間に合いませんでしたので、書類作成などは早め早めに書き始めた方が良いと思います。

書類作成よりも大変だったのが面接でした。小海高から大妻へ進学した先輩がいまないので、オープンキャンパスへ参加しデータを集めることから始まりました。

提出書類をもとに自分なりの言葉で伝える事は、本当に難しいものです。私の面接の回答は、文章で覚えるやり方であるため、一度詰まってしまうと頭が真っ白になって言えなくなってしまいます。そこで、ある先生からのアドバイスを頂きました。伝えたい部分や絶対言いたいところにマーカーで線を引くことで整理がつき、面接時に伝え忘れないなどとても効果的でした。ただ文章にするのではなく、自分なりに覚えやすく工夫することをお勧めします。また、面接練習は反復することで、自然と覚えられますのでたくさん面接練習をしてください。

受験当日はとても緊張します。緊張と予想外の質問に焦り、上手く話せなかったり、何回も練習していても話しているうちに飛んでしまうこともあります。私が面接試験を経験して思ったことは、志望理由やその大学で学びたいことを伝える事は大事ですが、時事問題に目を向けることも大事だということです。私の場合半分くらいが時事問題でした。入試では必ず最近気になったニュースは何か聞かれます。ですから、普段からニュースや新聞を見ることはもちろん、自分が住んでいる県や日本が抱える問題など知っておく必要があると思います。

高校三年生は生徒会や班活、文化祭に受験と、とても忙しく焦る日々もあると思います。しかしその受験で得た自信や力は、様々なところで生きていくはずで、最後まで諦めず合格をつかみ取ってください。応援しています。